

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市民の文化芸術活動を支援します。	市民自ら行う文化芸術活動の「きっかけづくり」や「継続的な活動」をお手伝いする 様々なジャンルの達人やプロフェッショナルによる講座やワークショップで、大人の知的好奇心を刺激する	市民のための講座					
		□年間開催回数	10コース以上	11コース	B	□入門編 ・やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ(4/12-6/7) 計5回	【評価】 ・芸術文化活動のジャンル、レベル及び関わり方が異なる市民ニーズに対し、それぞれが主体的に知識獲得を行えるよう、きめ細かく多彩なアプローチ手法を、年を通して提案し続けたことにより、全体として参加者満足度が高い市民の文化芸術活動支援が実現したと考える。また、地元企業・飲食店との連携や専門性の高い講座、アーティストと共に新しい試みに挑戦するなど、当館ならではのプログラム開発にも挑戦し、今後の更なる発展に道筋がついたと評価する。
		□年間延べ参加者数	800名以上	778名	B	□中級編「ヌードクロッキー」 ・ヌード・クロッキー(4/11-3/20) 計5コース	【評価できる点】 ・市民のためのプログラムやあざみ野カレッジ等、いずれも多彩な魅力ある講座、プログラムを実施することにより、市民に対して文化芸術に触れるきっかけ、活動の場を提供したこと高く評価します。加えて、特筆する点として、いずれのプログラムも提供する分野や内容がきめ細かに検討、企画されており、その結果として、参加者の満足度が高いものとなっています。
		□平均満足度	4.6以上	平均4.83	B	□中級編「ヌードクロッキー」 ・ヌード・クロッキー(4/11-3/20) 計5コース	・「あざみ野こどもぎやらりい2018」では、子どもたちが楽しく参加できる企画を練り上げ、結果として過去最高の来場者数を記録しました。子どもたちにアートを通して、創造の楽しみを体感する場を提供したことを高く評価します。
		□入門編	2コース 計10回	2コース 計10回	B	□中級編 ・蕎麦の陶芸と蕎麦打ち(5/18-7/25) 計5回 ・人物デッサン(10/5-12/21) 計7回	・横浜市芸術文化教育プラットフォームにおいては、これまでの取組の継続に加えて、新たに地元企業、アーティストとの連携の実現により、地元小学校の子どもたちに対して造形をはじめとする、芸術に触れる面白さを伝える事業を開発することができました。
		□中級編「ヌードクロッキー」(4コース各4回)	5コース 計20回	5コース 計20回	B	□アーティストに学ぶ ・おぼえてる?一思い出を陶に焼き残そう。 保科晶子(3/9,23) 計2回	・親子のフリージーンや子ども向けの各種講座の開催により、身近な場所でアートに親しみきっかけづくりに貢献した点を評価します。
		□中級編	2コース 計12回	2コース 計12回	B		・「フェローアートギャラリー」や「あざみ野アートワゴン、マルシェ」の実施により、障害者の芸術活動の紹介の場を提供し、支援したこと評価します。
		□アーティストに学ぶ	2回	2コース 計4回	B		・各企画展の実施を通して、若手作家の作品紹介の場を提供しました。特に「フォトアニマル」においては、ゲストキュレーターや出展作家の打ち出し方の工夫により、見ごたえのある展示空間を作り出すことができました。メディアにも多数取り上げられた点を評価します。
		あざみ野カレッジ					
		□年間参加者数	300名以上	448人	A	□アート関連 ・故キラ温ネテ現在ヲ知ル「浮世絵への視線をめぐつて」 講師:渡邊 晃(太田記念美術館 学芸員)(6/23) ・故キラ温ネテ現在ヲ知ル「洞窟壁画からたどる『美術』の変遷」 講師:五十嵐 ジャンヌ(先史学 博士)(7/14) ・故キラ温ネテ現在ヲ知ル「江戸思想から考えるコミュニケーション」 講師:高山 大毅(駒澤大学文学部 講師)(8/11) ・現代美術探求ラボvol.4統・拡張する表現「美術」についても一度考える 講師:天野太郎(10/8) ・現代美術探求ラボvol.5美術とコレクション 講師:天野太郎(1/19)	【更なる取組を求める点】 ・各種事業の企画において、地元企業等との連携の深化、アウトリーチの強化により、文化芸術を核として、引き続き地域活性化に資する活動を行うことを期待します。 ・「あざみ野こどもぎやらりい」等、多数の親子連れの来場が見込まれる事業の計画にあたっては、引き続き事故ゼロに向けて、安全に楽しんでいただけるような人員配置等の配慮も行ってください。
		□平均満足度	4.5以上	平均4.67(達成)	B	□アート関連 ・故キラ温ネテ現在ヲ知ル「江戸思想から考えるコミュニケーション」 講師:高山 大毅(駒澤大学文学部 講師)(8/11) ・現代美術探求ラボvol.4統・拡張する表現「美術」についても一度考える 講師:天野太郎(10/8) ・現代美術探求ラボvol.5美術とコレクション 講師:天野太郎(1/19)	・アーティスト及び派生型アートリーチ 山内小学校5年生全員に対するワークショップも5年目となり、夏の成果展に向け子ども達が意欲的に取り組む体制が確立している。
		□アート関連	年4回	年5回	A	□地域ほか広範囲な題材 ・ハイエンド・オーディオという「楽器」 一開発者の目指す音 講師:齋藤重正(アキタunes株式会社会長)(4/7) ・日用品店「SSS」を訪ねて -コーヒーやアートが溶け込む場所 講師:敷浪一哉(建築家)、L PACK.(アーティストユニット)(12/15) ・毒を持つ生物から考える自然と人間の距離 講師:西海太介(自然教育指導者)(2/9)	・「市民協働/地域連携型アートリーチ」 今年度も横浜市岩間市民プラザでの「フェローアートギャラリー」巡回展を実施。安定した障害者アート紹介のネットワーク構築が実現している。
		□地域ほか広範囲な題材	年4回	年3回	C	□専門性の高い実践講座 ・アーティストが海外で活動を始める方法「アーティスト・イン・レジデンス」 講師:増山士郎(アーティスト)(4/14) ・アーティストが海外で活動を始める方法「助成金に応募する」 講師:増山士郎(アーティスト)(4/15) ・学芸員のための実践講座「会場構成の基礎知識」 講師:佐野誠(スーパーファクトリー)(3/2)	【課題】 ・昨年度に比べ「市民のためのプログラム」における收支面での黒字が縮小した。手間のかかる「少数精鋭」での事業展開と受益者負担(参加費)の設定について、更なる検討を要する。 ・鑑賞型事業(「あざみ野サロン」)における、採算性を更に向上させるべく事業費と参加料のバランスやプロモーション戦略などについて一層のきめ細かさを要する。加えて、助成金獲得等の外部資金獲得を目指す上で、企画立案スケジュールの前倒しの必要性も課題となっている。
		□専門性の高い実践講座	年3回	年3回	B	※学芸員のための実践講座「美術品取り扱い実習」(於:横浜市民ギャラリー=連携開催)(2/2,3) 講師:天野太郎(当館主席学芸員)、名田恒治(ヤマグローバルジョンズティクスジャパン株式会社)	・地域施設としては、芸術文化面から地元の活性化を図る「アートリーチ」事業は重要なミッションの一つである。その部分について、未だポテンシャルを生かされていない観が否めない。

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 市民の文化芸術活動を支援します。	3 複合施設の特徴を活かした、企画展関連事業、フェスティバル事業との連携事業、センター横浜北との共催企画で、アートフォーラムあざみ野の賑わいを創出や顧客開拓する	あざみ野サロン 企画展関連、他舞台系事業				(評価は前ページに記載)	(評価は前ページに記載)	
		□年間開催回数	年4回 (企画展関連、舞台系:3回、DDD関連:1回)	年5回	A □企画展関連事業、その他舞台系 4回 ・原作者トーク&朗読で愉しむ「日々是好日」 (10/21) ※センター横浜北企画 ・あざみ野寄席!新春!金原亭馬玉独演会(1/13) ・映画「ミリキタニの猫『特別篇』」上映会 (2/16) ・「春にして君を想うⅡ」(コンサート)(3/17)			
		□年間入場者数	420人	644人	A □DDD関連事業 1回 ・バリ舞踊とガムラン公演(DDD関連事業) 「南の島バリ ガムラン音楽と舞踊」(9/23)			
		地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ	年1回	年1回	B □地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ ・山内小学校 写真ワークショップ「自分の思いと写真」 (6/12,18,26,7/2)			
	4 日ごろ文化芸術に触れる機会の少ない市民を対象としたアートの出前事業を行い、また、市民交流やコミュニティの活性化を図り、創造的なまちづくりを推進する	市民協働/地域連携型アウトリーチ	年1回	年1回	B □市民協働/地域連携型 ・横浜市岩間市民プラザ:地域連携型(派遣型) フェローアートギャラリー「谷村虎之介展」(8/17-28)			

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
2 子どもたちをはじめとする次世代育成をします。 5 アートを通して子どもの感性を磨き、主体性を伸ばすとともに、創造の喜び、コミュニケーション力、思いやりの心を育む	企画展「こどもぎゃらりい2018」 □関連事業 展覧会でのワークショップ アトリエを会場にアートと触れ合う事業を実施 □年間延べ参加者数 □平均満足度 □親子向け:親子のフリーゾーン(FZ) □親子向け/障がい者支援:親子で造形ピクニック □学校利用:造形活動による、学校支援 □幼児向け講座 実施回数 □児童向け講座 実施回数 芸術文化面からの学校支援 児童対象:教育プラットフォーム 実施校数 □年間実施校数 □年間参加者数 □児童対象:カメラ・写真に関連するアートリーチ ※1~4 地域、派遣型アートリーチ再掲 教師のためのワークショップ □年間実施回数 □年間参加者数	企画展「こどもぎゃらりい2018」	来場者3,500人以上	6,052人	A	□夏の企画展「あざみ野こどもぎゃらりい2018 『みんなでモンスター!』」(7/27-8/5) 【展示室1】「モンスターに変身! の部屋」 【展示室2】横浜市立山内小学校5年生「自分の思いと写真」	<p>【成果】 ・「あざみ野こどもぎゃらりい2018」子どもを中心とした参加型企画展として、過去最高の来場者数を記録し大成功を修めたと自負する。 展示室1では、「みんなでモンスター！」をテーマに、布を使って衣装やアート作品をつくるアーティスト・伊東純子の作品を、展示室2では恒例となった横浜市立山内小学校の子どもたちが撮影した写真を展示。 展示室1は、3つの体験型のコーナーを設け、3時間以上過ごしていたご家族やリピーターの方もあり、会期中はいつも子どもたちの歓声や笑顔であふれていた。会期最終日の一夜限りのアートイベント「あざみ野ナイト」(DDD関連企画)では、ワークショップ参加者が小さなモンスターに扮しパレード。エントランスでのサーカス・パフォーマンスやこの日のために結成されたバンドによる幻想的な演奏が館内に響き渡った。また、野外ではブチ縁日も出店し、夏のお祭りはドキドキ・ワクワクでいっぱいになり、子どもたちのためのアートな展覧会のグランドフィナーレは大賑わいとなった。 ・今年で5回目となる地元小学校との連携事業事前に行なった出張ワークショップによる子どもたちが撮影した写真に、それぞれの思いを綴った文章を添えて展示する成果展については、地域連携として定着していると考える。 ・「親子のフリーゾーン」は、子どもたちをアートの入り口へと誘う定番事業として、重要な意味合いをもつと確信している。今年度も約8,300人の来場者を迎えた好評であった。繁忙期には、非常に混雑する事業であるが、スタッフの適切な対応の積み重ねにより、全行程を無事故で終了した事に安堵している。ここから派生している、障がいを持つ子どもを対象とした、「親子で造形ピクニック」「学校利用」についても安定運営を実現できた。 ・各種「子どものためのプログラム」においては、絵画、粘土、スポンジ、ダンボールなど日用品を用いたワークショップ等に加え、焼き物、木工、ガラス加工等の当館ならではの内容も実施した。いずれの事業も応募者多数により抽選を行うことなり、高い人気を博した。 ・横浜市芸術文化教育プラットフォーム内の新しい試みとして地元企業からの資材提供を受ける形での造形ワークショップを開催しようとした。当館がハブとなって「芸術文化」を核に企業と教育機関を繋げる試みについては、今後も果敢に挑戦していきたい。</p> <p>【課題】 ・「あざみ野こどもぎゃらりい」においては、予想を超えた賑わいとなった故に、来場者に対するきめ細かい安全確保に苦慮した。今回は、都度の対応で問題が生じる事はなかったが、子どもを対象とした事業については、引き続き会場構成、導線、人員配置等々について格別の配慮を要する。 ・地元企業との連携について、継続的な協力関係を構築するに当たっては、その効果(アウトカム)をきちんと明示する事が求められる。事業評価の在り方も含め検討を要する。 ・教師のためのプログラムを発展させ「横浜市中学校アニメーションフェスティバル2018」を発足した。当事業を将来に向け発展させていくに当たって、様々な調整事項が想定されている。次年度においては、一つ一つを、確実に処理し運営基盤の確立が求められる。</p>	(評価は前ページに記載)
		□関連事業 展覧会でのワークショップ	1回	有料WS 1回 無料WSコーナー(会期中毎日)	B	□展覧会内でのワークショップ 計2回 ・リトルモンスターをつくろう! の部屋(会場内常設) ・モンスターに変身してパーティーに出よう! (8/3,5) ※関連事業 あざみ野ナイト「みんなでモンスターパーティー!」(DDD関連事業)(8/5)		
		アトリエを会場にアートと触れ合う事業を実施						
		□年間延べ参加者数	9,000名以上	9,261名	B	□親子のフリーゾーン 年間36回、参加者数:8,325名 (4/11、25、30、5/9、23、27、6/6、10、20、7/4、8、29、8/1、22、9/5、19、23、10/3、17、21、11/7、11、21、12/5、9、19、1/9、14、23、2/6、11、20、3/6、20、24)		
		□平均満足度	4.6以上	平均4.83(達成)	B	□親子で造形ピクニック 年間12回、参加者数:149名 (4/21、5/19、6/16、7/14、8/18、9/22、10/27、11/17、12/15、1/19、2/16、3/16)		
		□親子向け:親子のフリーゾーン(FZ)	月3回	月3回	B	□学校利用 年間16校 いぶき野小学校個別支援学級、山内小学校個別支援学級、高津養護学校、北山田小学校、上山小学校個別支援学級、たかづくらぶ、港北小学校個別支援学級、若葉台特別支援学校、あざみ野第一小学校個別支援学級、折本小学校個別支援学級、上菅田特別支援学校、弱視級集団活動、大豆戸小学校個別支援学級、長津田小学校個別支援級、勝田小学校個別支援級、大門小学校個別支援学級		
		□親子向け/障がい者支援:親子で造形ピクニック	月1回	月1回	B	□幼稚向け講座 年6回 ※年齢制限なし 年3回 ・子どものイベントへんしん! どうぶつお面」(5/6) ※年齢制限なし ・見て、さわって、描く(5/27) ・えのぐであそぼう! (6/10) ・焼き物しよう! (9/23) ・アトリエのメガネ屋さん(10/21)※年齢制限なし ・土ねんどであそぼう! (11/11) ・みんなでつくるあったかクリスマス(12/1,2)※年齢制限なし ・木の車をつくろう! (12/9) ・ダンボールであそぼう! (1/14)		
		□学校利用:造形活動による、学校支援	年10回程度	年16回	A	□児童向け講座 年6回 ・うごくしみでつくろう(4/30) ・スポンジオブジェ(7/8) ・油絵を描こう(8/18、8/25、9/8、9/22) ・モンスターに変身してパーティーに出よう! (8/3,5) ※再掲 ・スタンプアート(2/11) ・ガラスアートに挑戦! (3/24)		
		□幼児向け講座 実施回数	年7回	年9回 (内 年齢制限なし: 3回)	A	・すみれが丘小(山田裕介/金属加工) 協力:古河電工パワーシステム(7/4、11、13) ・奈良の丘小(山田佐映子/絵の具遊び)(9/12、21) ・高田東小(伊東純子/衣装制作)(9/25、27、28) ・美しが丘東小(松本力/アニメーション制作)(12/12、13、18)		
		□児童向け講座 実施回数	年6回	年6回	B	□児童対象:カメラ・写真に関連するアートリーチ ・山内小学校 写真ワークショップ「自分の思いと写真」 (6/12、18、26、7/2)※再掲		
		芸術文化面からの学校支援				□教師のためのプログラム「アートアニメーションの実践」 (7/30) 講師:松本力		
		児童対象:教育プラットフォーム 実施校数				・横浜市立中学校アニメーションフェスティバル2018開催(9/15) ※当初計画外での実施:参加者49名		
		□年間実施校数	3校以上	4校	A			
		□年間参加者数	参加者200名	296名	A			
		□児童対象:カメラ・写真に関連するアートリーチ ※1~4 地域、派遣型アートリーチ再掲	1校	1校	B			
		教師のためのワークショップ						
		□年間実施回数	1回	1回	B			
		□年間参加者数	10名	20名	A			

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	6 市民とアーティストの交流の場を設ける	企画展でのアーティストとの交流 アーティストトーク、ワークショップ	コンテンポラリー展、写真展会 期中で年4回	9回	A	<p>□コンテンポラリー展及び写真展期間中 「あざみ野コンテンポラリーVol.9」 ・レセプション(9/29) ・アーティストトーク#1 石垣克子／露口啓二 (9/29) ・アーティストトーク#2 西村有／今井智己 (10/13) ・アーティストトーク#3 山城知佳子(10/14) 「あざみ野フォト・ユニアル」 ・レセプション(1/26) ・アーティストトーク(1/26) ・対談 長島有里枝×少年アヤ(2/23) ・ギャラリートーク 野村浩×日比谷安希子(2/10) ・対談 野村浩×大森克己(写真家)(2/24)</p>	(評価は前ページに記載)
3 アーティスト・クリエーターの支援と創造性を活かしたまちづくりをします。	7 ミニギャラリーを設置して、若手アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表する場を提供する	□新進アーティスト支援 ショーケースギャラリー	年4回	4回	B	<p>□ショーケースギャラリー ・中村潤展(4/28-7/8) ・染谷聰展(7/14-9/17) ・松田直樹展(9/22-12/16) ・保科晶子展(1/6-3/24) * 保科晶子展関連ワークショップ ※再掲 「おぼえてる?一思い出を胸に焼き残そう。」 (3/9/23)</p> <p>□フェローアートギャラリー ・vol.30 浅井治江 展(4/28-7/12) ・vol.31 十亀史子 展(7/14-10/11) ・vol.32 白田祐太展(10/13-1/10) ・vol.33 長岡彩 展(1/12-4/18)</p>	
		□障がいのあるアーティストを紹介 フェローアートギャラリー	年4回	4回	B		
8 センター横浜北との協働関係をさらに強化し、文化芸術と男女共同参画の理念を融合した事業を展開することで、魅力あるまちづくりにつなげる	横浜のアーティスト、地域の方々によるコンサート ロビーコンサート					□ロビーコンサート (4/8、22、5/13、27、6/10、24、7/8、22、8/12、26、9/9、23、10/14、21、11/11、25、12/9、23、1/6、27、2/10、24、3/10、24)	
	□年間開催回数 (ジュニアコーラス発表会1回を含む)	24回	24回	B			
	□年間来場者数	2,040名以上	2,817名	A			
	ジュニアコーラスワークショップ					□あざみ野クリスマスジュニアコーラス2018 練習:11/3、10、11、17、24、12/1、8、15、22 発表会:12/23 ※ロビーコンサートに含む。	
	□1コース実施回数	10回	WS 10回 発表会 1回	B			
	□延べ参加者数	300名以上	延べ334名	A		□あざみ野マルシェ/アートワゴン ・あざみ野アートワゴン(5/6、7/29、8/1、9/19、1/19) ・あざみ野マルシェ(5/19、8/1、10/21、1/19)	
	アーティストや障がいのある人たちの活動紹介、作品発表・販売の場を支援 「あざみ野アートワゴン、マルシェ」						
	□年間開催回数	8回以上	年9回	A		□アートフォーラムフェスティバル時の調査アンケート実施 (10/21)	
	文化芸術と男女共同参画の協働事業実施に関する市民ニーズ調査						
	□アートフォーラムフェスティバル時の調査アンケート実施/専門家講演会開催	1回	1回	B			
	□参加者数	80名以上	アンケート回答125名	A			

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		□専門性の高い実践講座		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 アーティスト・クリエーターの支援と創造性を活かしたまちづくりをします。	地域の人材を活用し、協働を強化する。アートサポートの活動を拡大し、運営や広報活動への積極的な参加を促す。地元の団体やマイスターを活用した講座やワークショップを実施する	アートサポートとの協働ワークショップ					
		□年間開催回数	年2回以上	協働WS:3回 鑑賞会:3回	A	(評価は前ページに記載)	(評価は前ページに記載)
		□年間延べ参加者数	300人以上	参加サポートー;78人 協働WS参加者; 353人	A	□アートサポートによるワークショップ (子どもの日、クリスマス)※再掲 ・子どものイベント「へんしん!どうぶつお面」(5/6) ・リトルモンスターをつくろう! の部屋(7/27-8/5) ・「みんなでつくるあつたかクリスマス」(12/1,2) ※あざみ野アートセンター美術鑑賞会 ・あざみ野コンテンポラリー「今もゆれている」(10/13) ・あざみ野フォト・アニマル 長島有里枝展鑑賞会 (2/10) ・一日満喫! 戦後日本美術鑑賞ツアー 横浜美術館&横浜市民ギャラリー(3/9)	
		全館を挙げてのイベント □アートフォーラムフェスティバル	参加者4,000人以上	4,198名	B		
		■あおば美術公募展 共催	実施	実施	-		
		■フォトジェニック青葉への協力(予定)	実施	実施	-		
		■青葉区芸術祭 共催	実施	実施	-	□アートフォーラムフェスティバル2018 (10/21)	
		地産地消や女性起業家応援を通じた地元エリアとの連携、活性化 ■アートプラザのお弁当屋さん	実施	実施	-	□第3回あおば美術公募展(7/6-16) □青葉区芸術祭作品展(11/7-12、14-19) □フォトジェニック青葉フォトコンテスト審査協力(12/5)	
		大学連携					
	青葉区が展開する6大学連携事業、横浜市北部4区の大学と連携を図り、人材の交流やコミュニティの活性化を実現する	■大学との情報共有や事業連携の模索				□大学との情報共有や事業連携 大学連携 年間4校、7企画 ・城西国際大学:メディア学部による、企画展紹介映像制作と公開及び視覚障がい者用鑑賞ガイドシステム導入 4企画 * Gallery in the Lobby * あざみ野コンテンポラリーvol.8 * あざみ野フォト・アニマル(2企画) ・八洲学園大学:「博物館実習」実習生受け入れ ・東京藝術大学:学芸員、修復家、アーティストを対象とした近現代美術作品の最新の保存修復情報の共有 ・横浜美術大学:青葉区主催 「フォトジェニック青葉フォトコンテスト」審査協力	
			随時	実施	-		

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
4. 横浜らしい先進的な文化芸術の市民への発信をします。	企画展はコンテンツボラリーを中核に、より多くの市民に足を運んでいただくよう「横浜らしさ」「親しみやすさ」「暮らしに身近な」をコンセプトに展開	企画展「あざみ野コンテンポラリー」						
		□来場者数				□あざみ野コンテンポラリーVol.9 「今もゆれている」(9/29-10/21)		(評価は前ページに記載)
			3,000人以上	総入場者数: 5,253人	A	【関連企画】 ・アートなピクニック 一観賞に障がいがある人ない人が共に楽しむ鑑賞会(10/20) ・学芸員によるギャラリートーク(10/6) ※以下、再掲。 ・アーティストトーク#1石垣克子／露口啓二(9/29) ・アーティストトーク#2 西村有／今井智己(10/13) ・アーティストトーク#3 山城知佳子(10/14)		
		□平均満足度	4.6以上	4.58(未達)	B			
		「DDD@Yokohama2018」の情報発信・関連事業				□DDD関連事業 2回		
	都心部フェスティバル事業と連携した企画によって、イベントの周知や盛り上げの相乗効果を發揮	□あざみ野サロン内:1回				・あざみ野ナイト「みんなでモンスターパーティ！」(8/5) ・パリ舞踊とガムラン公演 「南の島パリ ガムラン音楽と舞踊」(9/23)		
		□あざみ野カレッジ(講座系):1回	2回	2回	B			
		□来場者数	150名	425人	A			
						【課題】 ・あざみ野コンテンポラリーについては、平均満足度の目標値を毎回4.6(5点満点)と掲げているが、若干届かない状態となっている。現状が決して低いとは考えないが、横浜北部の住宅地にあるギャラリーで「現代美術」を定期的に取り上げていくにあたっては、今後も引き続いてその意義と効果(アウトカム)について十分な根拠説明を押さえる必要がある。		

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		□中級編「ヌードクロッキー」(4コース各4回)			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
5 カメラ・写真コレクションの展示・保存・調査研究・教育普及をします。	13 適切に保存するとともに、調査研究を進める	データベース整備			●収蔵作品の状態確認・調査・整備 作品の保管状態を点検・改善しながら作業を行いました。不正確な目録を調査、補完して修正しています。		(評価は前ページに記載)	
		■作品の状態確認、修復 ■データの有効活用法を検討	随時	実施	-	■データベース整備 ・経常的に、作品の状態確認、修復を続けています。 ・データの有効活用法を検討(随時)		
		■収蔵環境の調査 維持管理目標に掲載	実施	実施	-	■収蔵環境の調査を実施 ・外部からの貸出、熟覧については、その要望にできる限り応えられるよう、柔軟な対応を心掛けています。		
	14 コレクションを活用して広く鑑賞に提供し、カメラ・写真ファンの要望に応える。市民にカメラ・写真文化に親しむ場を提供し、日本における写真発祥の地の一つといわれる横浜市の映像文化づくりに貢献する	■収蔵品の活用 貸出、熟覧への対応	随時	実施	-			
		企画展「あざみ野フォト・アニュアル」				□あざみ野フォト・アニュアル(1/26-2/24) ・企画展「長島有里枝展『知らない言葉の花の名前 記憶にない風景 わたしの指には読めない本』」 ・横浜市カメラ写真コレクション展「暗くて明るいカメラの部屋」		
		□来場者数	3,000人以上	総入場者数 6,848人	A	【関連事業】(企画展) ・アーティストトーク(1/26) ・アートなピクニック(2/9) ・学芸員によるギャラリートーク(2/10) ・対談 長島有里枝×少年アヤ「言葉の力とその限界」(2/23) 【関連事業】(コレクション展) ・ギャラリートーク(2/10) 野村浩×日比谷安希子 (横浜市民ギャラリーあざみ野学芸員) ・ワークショップ「カメラ・オブスクーラをつくろう」野村浩(2/17) ・対談 野村浩×大森克己(写真家) 「ティンタイプ、ライカ、スマートフォン～写真にうつらないものの変遷」(2/24)		
		□平均満足度	4.6以上	4.61	B			
		□ギャラリー イン ザ ロビー	年4回	4回	B	□「Gallery in the Lobby」 ・カメラのしくみ2018(4/28-5/27) ・切手に見る写真と映画の歴史(10/3-10/28) ・光れ！フラッシュ(10/31-11/18) ・キャラクターカメラ大集合！(3/2-3/24)		
		カメラや写真制作に関わる理解促進 ワークショップや講座	年4回	7回	A	【ワークショップ】※再掲 ・やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ(4/12～6/7) ・山内小学校写真ワークショップ 「自分の思いと写真」(6/12、18、26、7/2) ・「カメラ・オブスクーラをつくろう」(2/17) ・写真ワークショップ「身体を撮る」(3/223) 【講座・イベント】※再掲 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・アーティストトーク(1/26) ・対談 長島有里枝×少年アヤ(2/23) ・ギャラリートーク(2/10) 野村浩×日比谷安希子 ・対談 野村浩×大森克己(写真家)(2/24) ※東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関とは日常的に連携し、コレクションの管理について等の情報共有をしました。		

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			実施状況		評価	
Ⅱ 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 市民の文化芸術活動の支援をします。	【貸館】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援	【利用率】 □展示室1・2	100%	100%	B □展示室1:100%(半面A:100%、半面B:100%) 展示室2:100%(半面A:100%、半面B:100%)	<p>【成果】 ・展示室やアトリエの貸出については、引き続き利用者目線に立ちニーズ実現や課題解決の支援を心掛けた。芸術文化専門団体が管理運営にあたっている施設ならではの、トータルコーディネート(企画、展示、撤収)を実施し、好評を得ている。 ・展示室について、会期中の会場写真をホームページに掲出し貸館利用への誘客促進を図った。 ・「アートあざみ野」貸館利用紹介欄において利用状況を掲載し、幅広く来場者が訪れるようアピール強化に努めた。</p>	<p>【評価できる点】 ・展示室利用率が100%となり、地域の文化芸術活動の発表の場を提供することができました。特に、施設貸出にあたり、施設スタッフが展示に応じたきめ細やかな利用調整、アドバイス等を行うことで、満足度の高い展示環境を提供したことを評価します。 ・適切な人材の配置、効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 ・個人情報の適切な取り扱いや、人権尊重に係る研修の実施等、業務を適切に遂行したことを評価します。</p>	
		□アトリエ コマ単位	63%	年平均51%(未達)	C □アトリエ コマ単位 51%(未達) 日にち単位 81%(未達) 夜間コマ 26%(未達) ※全て小数点以下四捨五入			
		□アトリエ 日にち単位	93%	年平均81%(未達)	C 展示室の利用率は、100%と好調でしたが、昨年度に引き続きアトリエに関しては、目標を達成することができませんでした。			
		□アトリエ 夜間コマ	36%	年平均26%(未達)	C 展示室への専門性の高いアドバイス(対施設利用者) 広報支援(対施設利用者)			
	【各種支援】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援	□「アートあざみ野」で展覧会情報を紹介	4回	4回	B ■展示室、アトリエの事前打合せを行い、展示方法のアドバイス、不明な点の解消や要望に応えるよう努めました。展示室内での演奏会などの要望には、当日の全館利用状況をみながら調整・実現を図りました。	<p>【課題】 ・展示室の利用率は、昨年度に引き続き100%で推移したが、アトリエ利用率は、例年同様に目標値に届かない形での横ばい状態となっている。日にち単位では、80%を超えているので決して低いとは考えないが、やはり夜間利用が厳しく、各種割引制度についても利用促進への効果が得られていない。近隣のカルチャーセンターへの営業も試みたが反応が得られなかった。次年度以降は、夜間での自主事業や共催事業を定期開催するなどの展開も考慮していく。</p>	<p>【更なる取組を求める点】 ・アトリエの利用率が目標を下回りました。これまで各種割引制度の実施や周辺施設への営業等の工夫に取り組んでいる点は評価しますが、より効果的な利用促進策の検討に期待します。</p>	
		■チラシやフライヤーを配架	実施	実施	- ■広報の協力 昨年度に引き続き、広報誌「アートあざみ野」や施設ホームページトップに展示室、アトリエの利用を掲載すると共に、展示室については、会期中の会場写真もアップしました。チラシや案内についても、常時受け入れ、館内配架いたしました。			
		■施設HPで展覧会写真を紹介	実施	実施	- ■可能な限りお客様の都合に合わせせる形で、打ち合わせ及び現場視察に対応するように努めました。			
		利用者への的確で丁寧な応対、現場視察への柔軟対応、展示への専門性の高いアドバイス(対施設利用者)						
		■利用者打合せ	実施	実施	-			
		■現場視察対応	実施	実施	-			
	【施設提供に関する利用者サービス】 ホームページでの施設情報提供、利用期間中の物品預かり、制作活動のための空き時間のアトリエ提供	■HPでの施設情報提供	実施	実施	- ■ホームページ上に、分かりやすい文章表記を心掛けた施設情報を記載しました。	<p>【成果】 ・貸館利用者の満足度は、目標値を達成し高い満足を頂いている。特に利用上に関するクレームをいただくこともなかった。ご希望やご意見については、その都度課内で共有し対応可能なものについては即時対応を心掛けている。</p>	<p>【課題】 ・利用団体によっては、当館との打ち合わせ窓口担当者と出品者の間での利用に関する注意事項の共有がなされていない事があり、個々の利用者から当館に直接使用料がかかる貸し出し物品等の要求が入り対応に苦慮するケースがある。当館とのやりとりにおいては、窓口一本化の徹底を更に促す。</p>	
		■市内外ギャラリー情報の提供(配架)	実施	実施	- ■1階エントランスロビーにて当館に寄せられた、市内外ギャラリーや文化施設のリーフレットやチラシ類を分野別に閲覧しやすい形で配架いたしました。			
		■利用期間中の物品預かり	実施	実施	- ■随時、物品預かりを実施しました。			
		■施設空き情報の即時公開システム導入	実施	実施	- ■導入済み。随時更新中。			
		■利用手引き冊子のリニューアル	実施	未実施	- ■近隣カルチャーセンターへの利用案内営業(10月)			
		■貸館展覧会告知アカウントの新設	実施	未実施	- ■「割引制度」については、残念ながら利用促進に特段の効果は得られていませんでした。経常的に「夜間割引」の利用はありますが、平成29年度、30年度と「学生割引制度」については利用した団体はありませんでした。			
		■展示室、アトリエの「利用相談会」開催	実施	実施	-			
		■アトリエ割引(夜間割引、学生割引)	実施	実施	-			
2 利用促進、利用者サービスの向上及びアイディアノウハウの提案をします。	4 アンケートや意見聴取等による利用者ニーズの把握	□利用者アンケート 展示室利用者の満足度	4.6以上	年平均4.64	B ■管理合同ミーティングを火曜日に行い、アートフォーラム全体でクレームや意見を共有、対応策を協議しています。迅速で公平な運営改善を行っています。	<p>【成果】 ・貸館利用者の満足度は、目標値を達成し高い満足を頂いている。特に利用上に関するクレームをいただくこともなかった。ご希望やご意見については、その都度課内で共有し対応可能なものについては即時対応を心掛けている。</p>	<p>【課題】 ・利用団体によっては、当館との打ち合わせ窓口担当者と出品者の間での利用に関する注意事項の共有がなされていない事があり、個々の利用者から当館に直接使用料がかかる貸し出し物品等の要求が入り対応に苦慮するケースがある。当館とのやりとりにおいては、窓口一本化の徹底を更に促す。</p>	
	5 要望や苦情への対応、運営改善	■クレームや意見を情報共有し、運営改善につなげる			実施 実施			
3 組織的な施設運営をします。	6 適切な人材配置	■人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、臨時職員:3~5人	実施	実施	- ■勤務体制について(基本) 早番(8:45-17:30)2名、遅番(12:30-21:15)2名 (全職員によるローテーション制)	<p>【成果】 ・利用状況や業務繁閑に応じ、柔軟かつ効率的なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営の両立を実現している。 ・ワークライフバランスを意識し、相互協力の体制を維持しながら施設運営を支障なく行った。 ・館長・副館長不在時の代行者を明確にすることはもとより、緊急連絡先の職員間共有により、責任体制を明確化しています。</p>	<p>【課題】 ・定期異動等での職員の入れ替わりの際には、組織全体を俯瞰した上で、最も効率的な引き継ぎを行う。また、全職員が「多能的」に施設運営を担えるよう、OJTや研修を、地道に継続していく事が必須である。</p>	
		■勤務体制 繁閑に応じて柔軟なシフトを組み、良質な利用者サービスを提供する 早番:2名、遅番:2名(基本ローテーション)	実施	実施	- ■館長・副館長不在時の代行者を明確にすることはもとより、緊急連絡先の職員間共有により、責任体制を明確化しています。			
		■切れ目のない責任体制の維持 館長・副館長不在時の代行者を明確にし、責任体制を維持する	実施	実施	-			

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		□年間延べ参加者数		実施状況			評価	
Ⅱ 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
4 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	7 全般的な取組	■横浜市の発信する情報や研修参加等を通して、重要施策を理解し、積極的に協力	実施	実施	-	■個人情報の保管 施錠管理、パスワードロック ■顧客管理クラウドシステム「シナジー」導入 ■平成28年4月1日に施行された「障害者差別解消法」の内容を把握し、来館される方々が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に貢献する施設運営を目指しました。	【成果】 ・横浜市の重要施策を念頭に、毎月の職員会議での情報共有を行っている。常に、ホスピタリティの向上と公平・公正を中心掛け、利用者サービス向上に努めた。 ・経常的にコンプライアンス研修のほか、職員ミーティング等で注意喚起に努めている。マイナンバー収集にあたっては、実務に沿った研修、作業における事務所内における目隠しの徹底などに努め、個人情報の漏えい防止対策を励行。 ・ゴミ排出量やエネルギー使用量については、毎週の施設全体会議で推移を共有し抑制に努め、昨年並みを実現した。	(評価は前ページに記載)
		■コンプライアンス情報の共有、意識の向上			-	■利用者にはゴミの持ち帰りをお願いし、事務所で発生するゴミも細かく分別して再利用を促進し、排出量を抑えるよう努めました。		
	8 個人情報保護・情報公開	■個人情報の、規程およびマニュアルに基づいた適切な取扱	実施	実施	-	「アートフォーラムあざみ野(複合施設)」全体でのゴミ排出量は、3,506kg(前年3,783kg)でした。 ■空調運転など工夫し年間使用量については、昨年度並みを維持しました。		
		■すべての人に開かれた施設として、公平・公正な施設運営			-	電気 対前年度比:100%、ガス 対前年度比:100% ■物品購入・業務委託等にあたっては、有資格者名簿を参考に複数業者に見積りを取るなどし、出来得る限り市内業者への発注に努めました。		
	10 環境への配慮	■ゴミの排出量を抑える施設運営上、発生するもの;適切に分別利用者:原則持ち帰りの徹底。必要なら有料で処分	実施	実施	-	【課題】 ・新規職員配置、人事異動や退職などに動じない、安定運営を継続するための、業務システム構築への不断な努力が今後も必須である。		
		■エネルギー使用量の抑制 電気・ガス使用量を前年度並みに抑制			-	・当館のみならず、施設全体としての共通目標として取り組む課題なので、引き続き各部署との連携及び情報共有を強化していく。		
5 その他施設運営に関する事項								

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理をします。	1 共用部分の維持管理業務	■電気・空調・衛生設備・昇降機点検、建築基準法12条に基づく点検の法定通りの実施	実施	実施	-	□法定点検 実施:業務の基準に基づく点検・清掃=実施	【成果】 ・毎週1回の管理合同ミーティングの中で、施設や設備の不具合を共有し、効率的で効果的な修繕を実施し、常に現時点での最善な状態の維持を心掛けた。 ・建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、建築基準法や横浜市が策定する手引きやマニュアル、業務の基準に沿って、専門的な知識に基づく施設管理を実施。 【課題】 ・開館後14年を経て、小破修繕では対応しきれない大型の設備更新の必要が出てくると想定される。 ・引き続き、「アートフォーラムあざみ野」施設全体としての「安全・安心」を維持するため、今後もセンター横浜北、管理委託業者との密なる連携を継続できるよう、日ごろからのコミュニケーションを大切にしていく。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施し、施設原因の事故等の発生件数がゼロ件であった点を評価します。同一建物内に設置された男女共同参画センター横浜北の指定管理者とも定期的なミーティングを行う等、密に連携を取りながら、効率的に施設管理を行うことができました。 【更なる取組を求める点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。 ・所蔵するカメラ・写真コレクションのデータベース化や管理办法等、今後の資料活用については、本市と共に検討を継続してください。	
		□AED設置、操作研修	年1回	年1回	B	□AED設置2台 ※1台はセンター横浜北所有 ・操作研修 年2回(6月:外部研修に参加、9月合同防災訓練内で実施) □維持管理の検討会			
		□センター横浜北、管理委託会社との管理検討会	年1回	年1回	B	毎週開催の管理合同ミーティングでエネルギー使用量削減の相談をするほか、下半期に不具合リストを作成して、修繕の優先順位や時期、対応策を検討しました。			
		■横浜市が策定する、手引き、マニュアルに基づく点検・報告の実施	随時	実施	-	□設備管理業務を専門業者に委託し、横浜市が策定する手引きやマニュアル、業務の基準に沿って、専門的な知識に基づく施設管理を随時行っています。不具合は小さなうちに発見し、自ら修繕できるものは速やかに対応しました。			
	2 小破修繕へ取り組みます。	□展示室壁面の塗り直し 実施回数	年1回	年1回	B	□展示壁面の補修・塗り直し 1回(1/4-1/6) ※展示室可動壁全体調整 1回(8/13,14)			
		■展示室、アトリエ貸出備品の点検・整備	随時	実施	-				
		■第3期指定期間内における修繕、設備・備品更新などに関する提案	随時	実施	-				
2 小破修繕へ取り組みます。	3 早い段階で修繕必要箇所を発見、対応し、建物・設備の長寿命化を図る	■不具合を早期発見し、修繕必要箇所へ迅速に対応	実施	実施	-	■建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、横浜市が策定する手引きやマニュアル、業務の基準に沿って、専門的な知識に基づく施設管理を行っています。不具合は小さなうちに発見し、自ら修繕できるものは速やかに対応しました。 ■建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、毎週1回の管理合同ミーティングでの現況確認を経常化しています。平成30年度も、施設利用環境における、利用者からのクレーム等はありませんでした。	【成果】 ・不具合は、小さなうちに発見し、自ら修繕できるものは速やかに対応、また、業者への委託が必要なものは依頼事務も含め迅速に且つ適切に処理し事故発等の発生を未然に防いでいる。 【課題】 ・開館14年を超えて、様々な経年劣化が生じている。加えて、法規等の変更により定期検査の間隔や仕様変更も発生する。引き続き館全体としての対応を小まめに協議し、最善の状態を維持していく。緊急性は高くないが、利便性や将来的な耐久性に効果がある修繕に関しては柔軟に対応を図る。	【評価できる点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。 ・所蔵するカメラ・写真コレクションのデータベース化や管理办法等、今後の資料活用については、本市と共に検討を継続してください。	
		■適切で効果的な維持保全及び管理の実施	実施	実施	-				
	4 適切な収蔵庫管理の実施 温湿度管理、空気測定、喰害虫調査など	□収蔵庫内環境の維持	温度 20°C±2°C 湿度 50%±2%	実施	B	□展示室の温湿度管理 計画通り実施。			
		■pH値を定期的に測定して、結果に応じたケミカルフィルターを設置	随時	実施	-	■pH値を定期的に測定し、測定結果に応じたケミカルフィルターを設置しました。			
		□文化財喰害虫生息調査 実施回数	年8回	年8回	B	□文化財喰害虫生息調査 年8回			
		□庫内点検、定期的清掃 実施回数	月1回	月1回	B	□庫内点検、定期清掃月1回(毎月10日頃に実施) ■日本カメラ博物館等と日常的に連携し、コレクションの管理について情報共有しました。			
		■収蔵・保管、活用について、専門機関と協力・連携	実施	実施	-				
4 事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取り組みます。	5 事故防止策	■安全管理に関するマニュアルの必要に応じた更新、改訂	随時	実施	-	■人事異動に伴い、緊急連絡網や消防計画、機械警備マニュアルの見直しを随時行うとともに、職員会議や防災訓練などの際に、更新・改訂点を中心に情報共有を行いました。	【成果】 ・アートフォーラムあざみ野全体の取組みとして、センター横浜北や管理委託業者との日常的なコミュニケーションを図り、危機管理に対する良好な協力体制が構築されている。 ・今年度は、「帰宅困難者一時滞在施設対応」に特化した訓練の充実図り、施設全体での災害時対応の強化に努めた。 【課題】 ・緊急時においては、組織上のヒエラルキーや所属する「ギャラリー」「フォーラム」の区別無く、在籍職員が施設全体を把握し、的確な危機対応が出来るよう、引き続いての訓練を要する。	【評価できる点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。 ・所蔵するカメラ・写真コレクションのデータベース化や管理办法等、今後の資料活用については、本市と共に検討を継続してください。	
	6 緊急時(防犯)対応	■アートフォーラムあざみ野全職員が一致して危機対応する	実施	実施	-	■安全管理マニュアルについては、都度見直しを図り、変更点が生じた場合は、職員間への情報共有を図りました。			
	7 防災に対する取組	□センター横浜北との合同防災訓練 実施回数	年2回	年2回	B	■年2回の防災訓練を中心に「アートフォーラムあざみ野」全体としての緊急時対応について職員間の理解を深めるよう努めています。			
		□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 実施回数	年1回	年1回	B	□合同防災訓練 年2回:9/18, 3/5 (9/18は、消防署立会いでのAED操作訓練) □帰宅困難者一時滞在施設対応訓練(備蓄食料等の確認) 年1回:3/5			

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		市民協働/地域連携型アウトリーチ			実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
5 その他施設管理に関する事項 8 広報の充実 事業内容や想定対象層等を踏まえて効果的な媒体を選択し、コストパフォーマンスの高い集中広報を行う		ホームページの内容の充実、最新情報の発信						(評価は前ページに記載)
		□ホームページ更新	週1回以上	週3回程度	A	□ホームページ更新 週3回程度		
		□ホームページアクセス件数	年間50万以上	総アクセス: 3,543,863 ツップ: 686,112	A	□アクセス数 トップページ: 686,112件 ページ(全てのページ): 3,543,863件 □メールマガジン発行 年26回配信 1回の定期配信、ほか不定期配信		
		□メールマガジン 配信数	月1回(定期配信)	年26回実施	A	□「アートあざみ野」 年4回発行: vol.47~50		
		様々な広報媒体の活用				□有料広報 年3回		
		□情報誌「アートあざみ野」発行	年3回以上	4回	A	□無料媒体 毎月1回以上掲載		
		□企画展の広報 有料広告の効果的な活用	年3回	3回	B	■広報よこはま、フリーペーパー、ラジオなどの無料媒体は、その時々の旬な事業(企画展3種)やトピックス(講座、公演系)を「街ネタ」的に発信し施設の存在をアピールする目的に利用しました。		
		■新聞折込による情報発信	適宜	実施	-	■Facebookによる情報発信は、事業告知及び終了報告を中心に随時更新しました。		
		□無料媒体への掲載 掲載回数	月1回以上	月1回以上	B	■Twitterによる情報発信は、事業告知やトピックスの即時性を重視し更新しました。		
		■Facebookによる情報発信	随時	実施	-	■今年度は、新しい試みとしてアートワゴン &あざみ野マルシェのチラシを施設周辺に新聞折込みしました。10月開催のアートフォーラムフェスティバルについては、昨年同様に新聞折込みを行っています。		
		■Twitter情報発信	随時	実施	-			
		■センター横浜北との協力 合同広報会議 開催回数	適宜	実施	-			

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支構造及び収支バランス	1 一部自主事業の収支ゼロ化	□収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業	年間100万円以上	年間1,771,540円	B	「市民のためのプログラム」(年間11コース、参加者数:延べ778人)については、全体収支における受益者負担率が93.9%となりほど収支ゼロとなりました。	【成果】 ・「市民のためのプログラム」(年間11コース、参加者数:延べ778人)では、全体収支における受益者負担率が93.9%とほぼ執行予算との均衡を達成した(昨年度実績:102%)。 【課題】 ・黒字達成が望まれる「市民のためのプログラム」において、手間のかかる「少数精鋭」での事業展開と受益者負担(参加費)の設定について、更なる検討を要する。 ・その他の黒字を達成する可能性がある事業として、「あざみ野サロン」によるコンサート公演等が考えられる。しかしながら、指定管理料の投入を行わない「受益者負担で全て賄う」状況には、至っていない。 ・更なる、収益性を重視した販売促進等に努める。	【評価できる点】 ・質の高い事業を行う予算を確保するために、自主事業の企画にあたっては、内容を充実させるため、各種助成金の獲得に努めた点を評価します。 【更なる取組を求める点】 ・今後も質の高い自主事業を展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案を行ってください。 ・光熱水費が予算を上回っていますが、昨年の酷暑の影響と推察されます。引き続き利用者の安全性、快適性にも配慮しながら、より効率的な管理費予算の執行に努めてください。
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	2 利用料金の安定的な確保	□利用料金収入(施設、駐車場)	1,310万円以上	11,583,600円(未達)	C	□年間1,158万円(未達)	【成果】 ・展示室利用率100%を達成。 ・「あざみ野コンテンツボラリー」に対し、野村財団より40万円の助成金獲得。 ・企画展レセプション用飲料提供を獲得。	【課題】 ・施設利用料金について、昨年同様に展示室利用率100%、及びアトリエ利用は昨年並みであったにも関わらず、昨年比を下回った=目標額に未到達。昨年に比べて、展示室利用時の付帯設備使用が少なかった事やアトリエ利用の微減が原因。 ・助成金獲得について、採択が1件に止まり目標達成がかなわなかった。今後は、関連すると考えられる案件については積極的に調整し外部資金の獲得に努める。
	3 助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□助成金 申請件数	2件以上	2件	B	□助成金を2件申請(1件採択) □助成金・協賛金・広告料獲得 53万5千円(未達) あざみ野フォトアニュアル企画展に対し40万円の助成金を獲得しました。その他、広報誌への広告収入や現物協賛(レセプション用飲料提供等)を得ました。	【成果】 ・展示室利用率100%を達成。 ・「あざみ野コンテンツボラリー」に対し、野村財団より40万円の助成金獲得。 ・企画展レセプション用飲料提供を獲得。	
	4 経費削減等効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理に係る委託費を抑制	前年度並みに抑制	実施	-	■建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑えることができました。開館14年を超え、中央監視装置、電話交換機や収蔵庫除湿機更新が実現できました。今後も、様々な機器や設備の更新時期が迫っています。	【成果】 ・建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑えることができた。 【課題】 ・開館13年を超え、様々な機器や設備の更新時期が迫っている。	

評価項目		H30年度計画			実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1						【成果】	【評価できる点】	
						【課題】	【更なる取組を求める点】	

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	特記(提案事項要旨)	H28年度計画	実施状況	評価	
		達成指標		説明	自己評価
総括	1			<p>【全体業務について】 開館14年(第3期指定管理4年目)を迎え、今までの業務内容を継承し発展を図る一方で、積年の課題を再検証しメリハリをつけた解決へのアプローチを意識して運営にあたりました。 横浜北部に位置する、市民と芸術文化の様々な「出会いの場」として、一般的な美術(ファインアート)というジャンルはもちろん、その枠を超えた表現の新たな動向を紹介し、創造性溢れる表現活動を幅広く育むべく様々なアプローチを試み成果を上げたと考えます。</p> <p>① 事業について 企画展は、例年通り年間3事業を夏・秋・新春に実施しました。 夏休み期間に開催した「あざみ野こどもぎゃらりい2018」では、「みんなでモンスター！」をテーマに、布による立体作品展示や子どもたちが参加できるファッションコーナーを開催すると共に、山内小学校の児童が撮影した写真展示を行いました。会期中はいつでも子どもたちの歡声や笑顔であふれ大好評でした。会期最終日の「あざみ野ナイト」では、子どもたちのファッションパレードやサーファス・パフォーマンス、この日のために結成されたバンドによる幻想的な演奏が館内に響き渡りました。 芸術の秋には、新しい表現に取り組む才能豊かな新進アーティストに光をあてた「あざみ野コンボラリー」を開催。「風景」をモチーフとした5人のアーティストたちによる作品を紹介しました。展示は、新作、未発表作を含む全66点で構成され、リアルな現実も、フィクション的な世界観も、それぞれに人々の記憶の深層につながることで、強いアーティストへと導かれるような鑑賞体験となり、アーティスト一人では作家自信が制作背景や経緯について説明し、各回盛況のうちに終了しました。 新春には、写真表現の現在を切りとる企画展と、横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを活用し紹介するコレクション展=「あざみ野フォト・ニュアル」を開催。本年度の企画展は、長島有里枝を取り上げ、彼女の近作や未発表作を含む構成しました。会場内には、大学との協力による視覚障がい者のための音声システムを導入するなど、全体的に先進性の高い内容となりました。コレクション展は、野村浩(写真家)をゲストキュレーターに迎え、所蔵品と彼の作品と合わせた斬新な展示方法が話題となりました。 (次ページへつづく)</p>	<p>・あざみ野という立地や地域特性も活かした企画等を通して、地域の皆さんに身近な場所で文化芸術の活動の機会や発表の場を提供する役割を果たした点を高く評価します。今後もこれらの活動を継続・深化することで、文化芸術を通じたコミュニティーの活性化に資することを期待します。 ・施設運営では、安定した運営を継続したことを評価します。また、男女共同参画センター横浜北と連携を図り、複合施設としても適切な維持管理を行うことができました。 今後も施設の特性を活かした魅力ある事業と、安定した施設運営を継続するとともに、これまでの指定管理者選定評議委員会や行政評価における指摘をふまえた、運営の向上に引き続き取り組んでください。</p>

平成30年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	特記(提案事項要旨)	H28年度計画	実施状況	評価	
		達成指標	説明	自己評価	行政評価
総括	1			<p>アトリエ事業では、「市民のためのプログラム」として初心者から上級者までそれぞれのニーズに応える幅広い内容で開催し、創作の楽しさを通してアートをより身近に感じていただくことを目指しました。加えて、当館ならではの個性ある事業として、地元飲食店との連携やカメラ・写真コレクションを活用したプログラム構成を心掛けました。</p> <p>「子どものためのプログラム」では、プログラムを学年別に展開しました。ワークショップで使用する題材も、多彩な素材を使い、「当館ならでは」の事業として好評を博しました。また、全ての講座を事故なく安全に実施することができました。</p> <p>「あざみ野カレッジ」では、芸術文化の専門性が高い講座のみならず、ジャンルに捉われない幅広い分野や横浜市北部地域で活動する市民団体や企業からの講師陣も配し「街の再発見」につながる展開を意識しました。</p> <p>DDDに際し、広報協力はもちろんのこと、子どもたちの身体表現や民族舞踊を紹介する連携事業を展開し、横浜北部においてフェスティバル発信拠点の役割を担いました。</p> <p>アウトリーチ事業では、横浜市芸術文化プラットフォーム事業を継続実施するほか、当館独自に横浜北部地域の小・中学校や公共施設等との連携による実施を行いました。特に、近隣企業からの資材協力を受け開催した小学校での造形プログラムは、その独自性に注目が集まりマスコミ等でも取り上げられました。</p> <p>センター横浜北との共催事業においては、従前より行っているロビーコンサートや舞台公演に加え、「男女共同参画」との融合による事業展開を模索するプロジェクトにも着手しました。</p> <p>大学等の教育機関と協働し、インターン実習生・博物館実習生の受入や事業連携を引き続き拡充し、次世代のアート界におけるインフラを担う人材育成に注力しています。</p> <p>②運営について 「ホスピタリティの向上と公平・公正」を運営の基本に据え、利用者にとっての安全安心を第一に、バリアフリー対応や災害時等の適切な対応等をセンター横浜北との協働で推進しました。 利用者をはじめ幅広い市民の意見を積極的に取り入れ施設運営に反映させると共に、市民が主体となって芸術に関わる。貸館での展示利用やワークショップについては、利用者の文化芸術活動が最大限発揮できるよう専門的なサポートを行いました。 貸館での展覧会を多くの市民に見ていただき、展示する側と見る側の交流を豊かにしていくことが、「まちづくり」に重要な役割を果たすと考え、貸館事業の広報支援にも努めました。</p> <p>③管理について 「アートフォーラムあざみ野」の施設・設備の維持管理業務を共同で担うセンター横浜北及び管理委託会社と情報を共有し、PDCAを徹底し、施設の長寿命化や環境への負荷軽減に向けた管理を行いました。特に今年度は、中央監視装置・電話交換機更新という長寿命化に繋がる重要な修繕が実現しました。今後の様々な機器や設備の更新時期についても、きめ細かな対応計画を心掛けました。 市民ギャラリーあざみ野の専有設備等については、展示室可動壁のメンテナンスを実施、また収蔵庫除湿機更新を実施が実現しました。ギャラリーとしての高い水準を維持し、長寿命化を図るために、引き続き丁寧な維持管理と経費管理を行っています。 また、市民の貴重な財産であるカメラ・写真コレクションの整理・保存を適切に行うとともに、当資料の将来に向けた効果的な活用策について検討を進め課題点を含めた提言を行いました。</p>	(評価は前ページに記載)